

□最近の活動状況

【定期講演会】

— 10月24日(月)とうほう・みんなの文化センター —

(一財)とうほう地域総合研究所、(公財)福島県産業振興センターとの共催、(株)東邦銀行の創立75周年記念協賛による定期講演会を、元プロ野球選手の桑田真澄氏を講師にお招きし「試練は人を磨く」というテーマで開催しました。会員の方々を始め約1,500名の方が聴講しました。

野球人生の挫折から、短時間集中型の努力と自分らしさを大事にすることを学び乗り越えてきたことや、本物に触れることの大切さなどのお話を頂戴しました。



上 講演会風景 右 講師 桑田真澄氏

【IPPO IPPO NIPPONプロジェクト東北支援終了式典】

— 11月6日(日)仙台市 ウェスティンホテル仙台 —

東日本大震災で被災した岩手、宮城、福島3県の専門高校などを支援してきた「IPPO IPPO NIPPONプロジェクト」の東北支援が終了し、記念式典が仙台市にて開催されました。

当プロジェクトは2011年10月に始まり2016年9月までの5年間で、全国の企業や個人からの寄付は総額で約21億8,000万円に達しました。

式典では、これまでの活動を振り返るとともに、被災3県の教育委員会の幹部から、提供機材の活用事例や卒業生が地域の担い手として活躍していることなど



パネルディスカッション風景

が報告されました。当会からは浅倉代表幹事、渡部代表幹事、阿部代表幹事を始め6名が出席しました。

【全国経済同友会代表幹事円卓会議】

— 12月5日(月)浜松市 オークラアクトシティホテル浜松 —

今回の円卓会議は浜松市で開催され、全国から約130名が参加し、当会からは渡部代表幹事、阿部代表幹事が出席しました。

始めに、全国経済同友会セミナーの決算報告及び今後の開催地の報告がありました。次にIPPO IPPO NIPPON プロジェクト東北支援の終了及び熊本支援



右から阿部代表幹事、渡部代表幹事

の進捗について報告がありました。その後、鈴木康友・浜松市長と、神野吾郎・(株)サーラコーポレーション社長が、それぞれの立場から周辺地域との広域連携の取り組みについて講演しました。

【第12回朝食懇談会】

— 9月28日(水) ホテル辰巳屋 —

講師 株式会社アポロガス 代表取締役社長 篠木 雄司 氏

テーマ 「ナニコレ珍百景に登録された新入社員研修」 参加会員数 43名

○ ベースはチャレンジ精神

当社は、1971年、小規模のLPガス販売店4社が集まり規模の拡大と合理化のために合併・協業して設立されました。その2年前に人類史上初の月面着陸を成功させたアポロ11号の「アポロ計画」にちなみ、無限の可能性に挑戦するというチャレンジ精神をDNAとして社名に刻みました。現在は、プロパンガスの供給を行っている「アポロガス」、リフォームを行う「ほっとリビング」、太陽光発電システムを扱う「アポロエナジー」、水道などの設備工事を行う「アレックス」など地元のライフラインを担う事業を展開しています。

○ 「目に見えない大切なもの」を心に刻むために

本日の演題は「ナニコレ珍百景に登録された新入社員研修」ですが、今から4年前、当社で行っている「ラジオDJ研修」がユニークだということで全国放送されました。

この研修は8年前から実施していますが、きっかけは、地元FMラジオ局から太陽光の話をして欲しいとの依頼を受け、口下手な社員がラジオ番組に出演したことです。会社のマイナスPRにならないかとても心配でしたが、その担当者は、事前に話す内容をまとめ一所懸命練習をしてラジオ収録に臨んだおかげで予想以上の出来でした。このことから、ラジオに出演することは、聞き手に伝わる言葉選びや話し方の勉強になると思い、翌月から番組を開始しました。現在は、当社の新入社員が県内企業の若手社員をゲストに迎えトークを展開する構成で毎週1回10分間放送しています。これにより、職場以外での同世代の繋がりも生まれますし、一人でゲストの出演交渉や番組の原稿作成などを経験することで、交渉力やコミュニケーション力の向上に繋がっています。

また、学生にもこのような機会を持って欲しいと思い、自己PR力をプロのアナウンサーが審査する「ラジオバトル選手権」を実施しています。これはインターンシップ研修も兼ねていて、内定者が企画運営を担当し参加もしています。日本全国他ではできない貴重な経験を通じて一人一人が人間的に成長し、福島で就職又

右 講師 篠木雄司 社長
下 講演会風景



は地元を愛する心を持って県外で活躍することが、将来の福島の発展につながると信じております。

ラジオDJ研修の他に、一般で広く公募している賞に応募する「表彰エントリー研修」も行っています。入社半年後の研修で、当社がどういう会社でどういうことをやっているか調べたりまとめたりする過程が勉強になります。それが客観的に評価され、受賞につながれば社員にとっても大きな励みになります。

○ 私の人生は「恩返し」

20歳の時、大学を1年間休学してパイロットのライセンスを取得するために、中学高校時代の新聞配達で貯めたお金でアメリカへ行きました。ライセンス取得は幼い頃からの夢でしたので、結果をおそれず挑戦し念願を叶えることができ良かったです。もう一つ貴重な体験をしました。それは、渡米してすぐ、体調を崩し頼るところもなく心細い思いをしていた時、渡米の飛行機で偶然隣の席だった若い牧師さんが、自宅に招いて食事をご馳走してくれたことです。宗教も、肌の色も、それこそ言葉も違うにもかかわらず、何の見返りを求めずに私を助けてくれました。この時以来「恩返しできる人間になろう」と思い、この気持ちが今も様々な活動のエネルギー源になっています。

○ 福島が笑えば世界が笑う

当社には私が本部長を務めている「元気エネルギー供給事業部」という部署があり、原則的に新入社員は通常業務と兼務で配属されます。2か月に一度、ミニコミ紙「せっかくどうも」の発行や「ふくしまキャンドルナイト」のイベント事務局を務めています。

この他、震災後に立ち上げた「アポロしあわせ基金」で福島市内の幼稚園や保育所へ屋内でも遊べる遊具や絵本などを寄贈しています。

いろいろな研修や社会貢献活動を体験・経験することで「人の生きる目的は、まわりの人をしあわせにすること」という価値観を身に付けて欲しいと思っています。人を大切にし、その成長を心から願い育てる「あたたかいこころの社風」を大切にして、これからも福島を元気に、そして福島から日本と世界を元気にしていきたいと考えています。

(文責 事務局)

□ 今後の予定

【新年懇親会】

日 時：平成29年1月20日(金)

講演会 16:00～ 懇親会 17:15～

会 場：ホテル辰巳屋

講 師：株式会社ユーラスエナジーホールディングス エグゼクティブアドバイザー 清水 正己氏

□ 事務局だより

○平成28年9月～12月に入会・変更のありました会員を紹介します。(敬称略)

新規入会	 平成28年9月入会 はねだ まさと 羽田 真人 東京海上日動火災保険(株) 福島支店長	 平成28年10月入会 さとう まさふみ 佐藤 政文 損害保険ジャパン日本興亜(株) 福島支店長
	 平成28年12月入会 むとう やすのり 武藤 泰典 福島交通(株) 代表取締役社長	

引続き会員増強にご協力をお願い申し上げます。(平成28年12月20日現在 会員数88名)

編集日誌

- ◇本号の編集作業をしていた頃、「地元高校生が開発した『いかにんじんパン』の販売が始まった」との新聞記事に目が止まりました。
- ◇会員の皆様はご存知とは思いますが…。『いかにんじん』とは、福島地方発祥の郷土料理で、スルメとニンジン細切りにし、醤油、日本酒、みりんなどで味付けしたもので、お正月には欠かせない一品です。昨年5月には、ポテトチップス「いかにんじん味」が発売され大好評でした。
- ◇食わずにはいられなくなり早速お店へ。一口食べた時、多くの市民に愛され食べ継がれている「いかにんじん」をパンへと変身させた高校生の発想力に感動を覚えました。
- ◇実りある一年にするために、様々な情報を積極的に取り入れ、固定概念に捉われず柔軟な対応を心掛けて参りますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。(今野)

□会員企業紹介 【第13回 福島トヨタ自動車株式会社】

今回は当会の常任幹事を務めていただいている、福島トヨタ自動車株式会社の佐藤社長にインタビューしました。昨年9月、当社の技術の粋を集め復元された初代クラウンが公開され話題となりました。そのプロジェクトの経緯や今後の展望についてなど様々なお話を伺うことができました。

○情熱で蘇った初代クラウン

当社の創業70周年記念事業の一環として、又、クラウン誕生60周年を記念して全国のトヨタ自動車販売店が修復プロジェクトに挑みました。



佐藤 健介 代表取締役社長

当社がレストアしたのは、1962年式RS31型のクラウンで、20年近く雨ざらしの状態だったため錆びてボロボロでした。正直、復元するのは難しいと思いましたが、社内公募で集まった36名の熱い思いに、「やると決めたらあきらめないこと」を条件にスタートしました。

修復は困難を極めました。後から分かったことですが、その難易度は全国でも3本の指に入るほどでした。全て分解し一つ一つの部品を清掃、修理を行いました。部品を一から作り直すなど図面もない中、ボディからエンジンまで全てを修復しました。ものづくりにチャレンジして欲しいと思っていたところでしたので、貴重な経験を積むことが出来たと思います。

メンバーは若手からベテランまで参加し、60歳のエンジニアが少年のような眼で生き生きと作業する姿が印象的でした。又、技術の伝承という意味でも意義のあるプロジェクトでした。更に、エンジニアだけでなく営業担当者も参加し、業務の垣根を越えて作業をしたことで、各分野の一体感を強めることに繋がったと思います。

休業日に作業し約1年かけて車両が復元され、昨年8月に愛知県から東京都まで約430kmを走破した時は、震災からの復興を目指す福島の姿と重なりとても感慨深いものがありました。

○お客様の幸せのために

私自身が常に社員に言っていることは、極めてシンプルで「お客様を増やすこと」と「人を育てること」の二つです。

お客様に選ばれる企業でありたいし、数ある選択肢の中から当社を選んでいただいたお客様には、満足するカーライフを送っていただき幸せになって欲しいと心から思っています。社員は、このことを念頭に置いて仕事をし、その結果として、お客様が増えることに繋がれば良いと思います。

一方で人が育たなければ仕事になりません。仕事を通じて社員一人一人が成長する会社であるべきと考えています。私が、社長に就任した時に企業風土を変えるため、まず人事制度を大きく変えました。「頑張れば報われる」、「チャレンジ精神」を大切に、評価する制度を新たに導入しました。人事制度は、メッセージ性は強いですが目には見えないものですので、並行して目に見える店舗のリニューアルなどの投資も行いました。

○社員の自律を目指して

今後の展望においては、「人口減少」と「クルマそのもののテクノロジーの進歩」がキーワードになると思われます。人が減るということは、当然のことながら車の保有台数も減りますので競争が激しくなることが予想されます。

車のテクノロジーとして環境技術は言うに及ばず、今、盛んに話題になっているのが自動運転です。これから、技術が確立され法整備も含め実現されることは間違いないと思います。これにより、保険ビジネスも変わりますし、事故が減れば板金需要も減ると考えられます。EVやPHVが普及すれば、エンジンの修理がどうなるかなど、いろいろなことを考えなければなりません。

今までの考え方が通用しない時代を迎えようとしています。社員一人一人が会社の指示を待つのではなく、自ら判断し行動できるよう風土を変革していきたいと思っています。

どのような環境下であってもその時代のメインプレイヤーであり続けるためにお客様に支持いただけるよう、今後も取り組んで参ります。



住 所 〒960-8151
福島市太平寺字沖高25
設 立 1946年10月 従業員数 451名
T E L 024-546-6135
U R L <http://www.fukushima-toyota.info/>